

第3回 大阪・関西万博きょうと推進委員会 議事要旨

1. 日時・場所

日時：令和6年4月18日（木） 午後3時～午後5時

場所：京都ガーデンパレス 2階「葵」

2. 出席者

【委員】（17名）

山極委員（座長）、西脇委員、松井委員、村田委員（以上共同代表3名）、池坊委員（代理出席）、ウスビ・サコ委員、小川委員、奥田委員、阪口委員（代理出席）、田中委員、橋爪委員、平尾委員、堀場委員（代理出席）、前川委員（代理出席）、村尾委員（代理出席）、山地委員（代理出席）、吉本委員（代理出席）

【オブザーバー】

信谷オブザーバー、日向オブザーバー

3. 議事概要

- ・冒頭、座長あいさつの後、大阪・関西万博きょうと推進委員会認証制度の第一次認証事業の認証結果について事務局より報告。取組を提出した委員から取組についてご説明いただいた。
- ・大阪・関西万博きょうとアクションプラン Ver. 2（案）について事務局より説明。また、アクションプランのうち、多様な主体と連携して実施する11のフラッグシップ・アクションについて事務局から説明し、委員からご意見をいただいた後、委員の承認によりアクションプラン Ver. 2が決定した。
- ・来年万博会場内で実施する「（仮称）EXPO KYOTO Meeting」及び今年10月に京都で実施予定の万博半年前機運醸成イベントの概要案について事務局から説明し、委員の承認を得た。
- ・5月上旬にオープン予定の推進委員会公式サイト（EXPO KYOTO Official site）の概要及び関西パビリオン京都ブースの進捗状況、また、万博1年前ライトアップの実施状況について事務局より報告した。

〈座長あいさつ〉

- ・いよいよ、大阪・関西万博まで1年を切った。京都府市が一体となって、産業振興、地域振興、そして観光を進めていく目的でこの会が作られた。
- ・大阪・関西万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」がテーマであり、いのちをこれからどう考えていくのか、地球上に住むいのちたちを、人間と調和をさせながら、どうやって明るい未来を築いていくのかを考えることが求められていると思う。
- ・基本構想では、環境と文化を中核に据えたが、まさに京都は、昔から環境を大事にしてきた。京都議定書に表れるように、世界の環境政策の先鞭を切ってきたと自負してよいと思う。それに伴う文化が連綿と続いてきたということで、環境と文化を中心に据えながら、

どういふ未来を築いていくのか、ぜひ来年の大阪・関西万博では世界のモデルとなるような、様々な取組を実施したいと考えている。

- ・認証制度を発足させ、多くの企業が参加している。様々なイベントの計画も満載なので、ぜひ、今日は様々なご意見を伺いながら実施に結びつけていきたい。

〈主な意見〉

- ・食べ歩きや店主との会話、商店街内の神社への参拝等、地域資産としての商店街を体験していただけるようなツアーの造成に取り組んでおり、万博後もこうした取組が府内全域の商店街に広がってほしい。
- ・万博会場に来た方に京都に来ていただき、神社仏閣だけでなく、人々の暮らしを肌で感じていただきたい。オーバーツーリズムの問題もあるため、日頃あまり人が行かないような場所にも分散してお越しいただけるようなご案内ができればと考えている。
- ・万博来場者に城陽にも足を運んでいただけるよう、マルシェやイチジク料理の試食会、スタンプラリー等を実施する。大阪・関西万博の「京都館」が北から南までであるという思いでやりたい。
- ・持続可能な茶産業の発展を目指した取組の提案をしており、「むら茶」の魅力を掘りおこし、茶畑景観の活用及び茶産業に携わる村人の参画を行うことで、地域の茶業を持続させるとともに、これを契機に観光事業を推進する仕組みづくりを行いたい。
- ・住民やコミュニティにどう参加してもらうかを検討するべき。協力的な団体等をどうつなげていくか、住民との関わり方についてご意見を聞きたい。
- ・我々は世界の方たちをおもてなしするホストである意識を持つべきで、そこに住民を巻き込んでいく必要がある。ドバイ万博からバトンを受けて、次の万博、またその次の万博へつなげていく意識が薄い。京都で独自のフォーラムで世界に向けて新たな声明が発信されたらと思う。
- ・フラッグシップ・アクションについては、広域的に開催し、いろんな人たちに参加してもらいたいと考えている。これらのイベントを開催することで、参加した人の将来に何か残ったり、影響を与えるようなものになればと思う。
- ・和食と世界の食サミットについて、京都は各地に食文化の特色がある。また「だし」は世界の共通言語にもなった。京都と世界の料理人のコラボレーションや、生産者・交通事業者・お土産物屋（物販業者）・住民など、京都の食にかかわるすべての人たちが連携した取組みができればと思う。
- ・京都は伝統産業もさることながら先端技術産業も盛んな地域。京都企業の魅力を英語で発信するページ「京都オンライン・テックパビリオン」やディープテックツアーなどを通じて、先端技術産業と万博をつなげたい。
- ・スタートアップは京都にとってはとても大事。スタートアップのダボス会議みたいなことを京都に誘致してはどうか。
- ・我々は、世界各国の方々をおもてなしするホストであるという意識を持たなければならない。また、博覧会は2025年で終わるのではなく、2027年はベオグラード、2030年はリヤドと続くので、次の博覧会にバトンを渡すという視点を持たなければならない。

- プロデュース的な感覚が重要。京都の川巡りについては、市民も観光客ももう一度川に目を向けさせるために各イベントがあり、川とともにまちがあると考えべきである。
- 茶や和食などフラッグシップ・アクションに掲げられた項目について、将来に向けた京都の個性として打ち出し、パッケージとして世に出すことで発展できるのではないか。
- アフリカアートフェスティバルを京都でやりたいと思っている。アクションプランへの掲載を考えているのでまた提案する。
- 万博を契機に京都は何を大切にするのかという京都の価値を試されている。京都の価値を考えるいい機会だととらえている。多文化共生の考え方に基づき元のコミュニティをどう残しながら新たな分野・考え方を受け入れ、どう街を作っていくか、京都全体でどう地域づくりを行っていくかを考えていかなければならないと感じた。
- 中身がわからないのが今回の万博の悪いところ。人々が行きたくなるようにするためには中身がわからないといけない。もっと京都らしさを出した企画にしてほしい。